

令和 2 年度

# 事業計画書



日本赤十字社 埼玉県支部  
Japanese Red Cross Society

## 目 次

1	災害救護活動・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	救急法等の講習・・・・・・・・・・・・・・・・	3
3	赤十字ボランティア・・・・・・・・・・・・・・・・	5
4	青少年赤十字・・・・・・・・・・・・・・・・	6
5	社会福祉・医療・血液事業・・・・・・・・	7
6	国際活動・・・・・・・・・・・・・・・・	8
7	活動資金募集・広報活動・・・・・・・・	9
8	参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・	11

## はじめに

日頃より日本赤十字社埼玉県支部の事業運営にご支援を賜りまして、厚く御礼申し上げます。おかげさまで令和元年度に予定した事業も順調に実施することができております。

一方、昨年10月の台風第19号は1都13県という広範囲で甚大な被害をもたらしました。県内でも多数の人的被害及び住家被害が発生しました。被害にあわれた皆さまには心よりお見舞い申し上げます。今回の災害においては、赤十字から埼玉県災害対策本部に災害医療コーディネーター等を派遣して県内の医療機関の被害状況の確認を行ったほか、避難所を医療救護班が巡回診療するなど、これまでのノウハウを活かして本部運営を支援しました。また、避難された方々に救援物資（毛布・緊急セット・安眠セットなど）をお配りするなど、避難者の健康を守る活動にもあたりました。赤十字奉仕団も避難所で炊き出しを行うなど、県内の赤十字が一体となって支援を行いました。今後も引き続き発生する可能性のある災害への備えを怠ることなく進めてまいります。

日本赤十字社の活動は、活動資金をご支援いただく会員と、赤十字ボランティアのご協力で成り立っています。現在、我が国が急速な高齢化と人口減少という社会情勢の中で、活動を支えてくださる方々の高齢化と減少、それに伴い活動資金も漸減傾向となっているのが実情です。しかしながら、災害の大規模、頻発化が進む昨今にあつて埼玉県支部がこれからも赤十字の使命を果たすため、本社が作成した「日本赤十字社長期ビジョン」及び埼玉県支部中期事業計画に基づき、各活動に取り組んでまいります。

また、今年は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。埼玉県内でもオリンピックで4競技、パラリンピックで1競技が実施され、内外から多くの方が訪れることが想定されます。競技会場における救護所の運営やボランティアへの救急法等の講習など、埼玉県支部も協力、支援してまいります。

私たちは「苦しんでいる人を救いたい」という思いのもと、人のいのちと健康、尊厳を守るための活動を続けてまいります。どうぞご理解いただき、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

日本赤十字社埼玉県支部

事務局長 伊東 弘道

# 1 災害救護活動

いつ発生するかわからない災害への備えは完璧にできるものではありません。しかし、出来る限りの事前の備えが重要です。私たちは自らの研鑽に努めるとともに関係機関と連携して災害対応能力の更なる向上を目指します。



## 令和2年度 主に取り組む事業

- 台風第19号災害を踏まえた各種訓練及び被災時受援体制の構築を進めるとともに、救護に携わる者に実践的な訓練を行います。
- 災害時に支部業務を支える救護ボランティアを育成します。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のバスケットボール会場において観客用救護所を運営します。
- 台風第19号災害を踏まえ、地区・分区の救護資機材の配備計画を見直します。

## (1) 各種災害救護訓練の実施等

訓練名	内容
日赤埼玉県支部管内災害救護訓練	管内施設の合同訓練
日赤本社・第2ブロック支部災害救護訓練	広域支援を想定した訓練
第2ブロック支部災害対策本部要員訓練	災害対策本部要員の派遣
第2ブロック被災地先遣要員訓練	現地支援本部要員の派遣
日赤埼玉県支部災害対策本部訓練	被災地支部を想定した訓練
日赤群馬県支部災害救護訓練	救護班の派遣
九都県市合同防災訓練（埼玉県・さいたま市）	救護班・奉仕団の派遣
埼玉県国民保護実動・図上訓練	DMAT・救護班の派遣
埼玉県特別機動援助隊(埼玉 SMART)合同訓練	DMAT の派遣
県・市区町村等が主催する防災訓練等	救護班等の派遣

## (2) 各種災害救護研修の開催等

研修会名	開催予定回数	参加目標人数
救護班要員研修会（宿泊型）	1回	70人
災害救護ロジスティック要員研修会	2回	のべ35人
こころのケア研修会	2回	80人
救護員としての看護師研修会	1回	80人

上記の他、本社等主催の「全国赤十字救護班研修」「こころのケア指導者養成研修」「日赤災害医療コーディネート研修」「原子力災害対応基礎研修」や行政・他機関等主催の「DMAT 隊員養成研修」「都道府県コーディネート研修」「埼玉県地域 DMAT 養成研修」「埼玉県災害医療コーディネート研修」等に参加。

### (3) 救護ボランティアの育成

研修会名	開催予定回数	参加予定人数
赤十字救護ボランティア養成セミナー	1 回	のべ 25 人

### (4) その他の活動

- ア スポーツ大会（東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会、他）、式典等での臨時救護の実施（救護看護師の派遣）
- イ 年末年始の大宮氷川神社における雑踏救護の実施
- ウ 日本赤十字看護大学さいたま看護学部学生を対象とした災害救護訓練の実施
- エ 殉職救護員追悼式の開催（支部・日赤看護師同方会埼玉県支部共催）

### (5) 救護資器材等の整備

災害用非常食の備蓄	救護班要員用装備品の更新 (救護班要員用バックパック等)
医療セット（3病院分）及び dERU の医薬品補充	赤十字業務用無線設備・機器の更新

### (6) 救援物資の備蓄・配分

県内で発生した火災、暴風、豪雨、洪水等により住宅が全半焼、全半壊、床上浸水などの被害を受けた方に対し配分する「布団セット・毛布・緊急セット」などを備蓄し、地区・分区を通じて配分する。また、大規模災害に備えて、本社整備の救援物資「安眠セット・毛布・緊急セット」の備蓄、管理を行う。

### (7) 地区・分区に対する救援資器材等の配備

ア 「日本赤十字社埼玉県支部地区・分区救護装備・機器配備要項」に基づく配備

LPガス発電機・コードリールセット	投光器（全方位型）	天幕（大）	天幕（小）
軽量折りたたみテント	プライベートテント	パーテーション	簡易ベッド
車椅子（ノーバンク）	ハズフリー拡声器	トランシーバ（一対）	手回し充電式防災ラジオ
LED ランタン	中型救急箱	自動ラップ式簡易トイレ	非常用糞尿処理セット（100 回分）
大型扇風機	ポータブル蓄電池・ソーラーパネルセット		

イ 地区・分区用赤十字救援車を新たに 7 台配備する。

### (8) 看護師養成費の助成

赤十字の国際的なネットワークの中で、災害地域での救護活動や国際救援活動ができる看護師の養成を行う。そのための養成経費を令和 2 年 4 月に開校する日本赤十字看護大学さいたま看護学部へ助成する。

## 2 救急法等の講習

「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、県内各地で各種講習会を開催します。

地震や洪水等の災害時に自分自身や周りの人のいのちを助けられる人を一人でも増やすことを目的として防災・減災教育事業を実施します。



### 令和2年度 主に取り組む事業

- 各種講習を実施するとともに、防災教育事業では赤十字が蓄積した防災・減災の知識の普及にも努めます。
- 安定的な講習実施のため救急法の指導員養成を行います。
- 赤十字が持つノウハウを生かして地域包括ケアシステムを支援します。

#### (1) 救急法

講習会名	開催予定回数	受講目標人数
基礎講習	34 回	1,200 人
救急員養成講習	23 回	700 人
短期講習（2 時間程度）	170 回	8,500 人

※基礎講習・・・市民が行う一次救命処置(心肺蘇生、AED、気道異物除去)と手当の基本

※救急員養成講習・・・一次救命処置以外の応急手当（急病、きず・骨折の手当、搬送）

#### (2) 水上安全法

講習会名	開催予定回数	受講目標人数
救助員Ⅰ養成講習	4 回	80 人
救助員Ⅱ養成講習	1 回	15 人
短期講習（2 時間程度）	17 回	1,800 人

#### (3) 健康生活支援講習

講習会名	開催予定回数	受講目標人数
支援員養成講習	4 回	120 人
短期講習（2 時間程度）	25 回	600 人
災害時高齢者生活支援講習	50 回	900 人

---

#### (4) 幼児安全法

講習会名	開催予定回数	受講目標人数
支援員養成講習	5 回	150 人
短期講習（2 時間程度）	89 回	2,270 人

#### (5) 指導員等の育成

内容	開催予定回数	受講目標人数
救急法指導員養成講習	1 回	20 人
現任安全講習指導員研修	4 回	449 人

#### (6) その他

内容	回数
講習関係奉仕団への助成	3 回
各施設講習指導員連絡調整会議	3 回

#### (7) 講習用教材、普及資材の整備

AED トレーナー・心肺蘇生訓練用人形

#### (8) 防災教育事業

	対象	回数
赤十字防災セミナー	県民一般	15 回
減災セミナー		10 回
防災教育プログラム	高校生以下	15 回

※防災教育事業とは

将来発生が予測されている大規模災害から人びとのいのちを守るためには、地域コミュニティにおける「自助」と「共助」の力を高めることが重要になっています。赤十字が提供する防災教育事業とは、私たちが経験した過去の災害の教訓を踏まえ、地域に密着した形で自分と人びとのいのちを守る様々な方法を学ぶものです。

### 3 赤十字ボランティア

赤十字の事業を支える各奉仕団や個人ボランティアの活動を支援するとともに、相互交流を進めていきます。



#### 令和2年度 主に取り組む事業

- 地域奉仕団が防災・減災の旗手として活動できるよう赤十字防災セミナーを開催します。
- 奉仕団が活動する上で必要な支援を行うとともに、横断的なつながりの強化や赤十字活動のPRのため、赤十字フェス等を開催します。
- 青年赤十字奉仕団の新規結成を目指します。

#### (1) 活動の充実強化（支部主催研修会）

研修会名	開催予定回数	参加目標人数
ボランティア基礎研修会	3回	90人
ボランティア・リーダーシップ研修会	2回	80人
手作り品作製講習会	1回	60人
赤十字奉仕団委員長研修会・会議	1回	40人
赤十字奉仕団支部指導講師研修会	1回	5人
日本赤十字社防災教育事業 支部指導者養成研修	1回	3人

#### (2) 活動目標

- ア 地域奉仕団及び特殊奉仕団
  - (ア) 地域防災訓練への積極的参加
  - (イ) 地域に求められる奉仕団活動の推進
  - (ウ) 赤十字防災セミナーの受講
- イ 青年奉仕団
  - (ア) 他の奉仕団や青少年赤十字との連携強化
  - (イ) 新規奉仕団の結成

#### (3) その他

- ア 支部委員会
  - (ア) 支部委員会及び支部委員会正副委員長会議の開催
  - (イ) 各旧郡地区単位での地区・分区赤十字奉仕団連絡調整会の開催
- イ 本社及び第2ブロック主催の研修会及び会議
  - (ア) 本社主催赤十字奉仕団中央委員会への派遣
  - (イ) 本社主催支部指導講師研修会への派遣
  - (ウ) 第2ブロック支部赤十字奉仕団委員長・担当課長会議への派遣
- ウ 「赤十字フェス」の開催
 

赤十字活動のPRと奉仕団の交流・活動発表の場として「赤十字フェス」を開催する。



## 4 青少年赤十字

こども達が学校生活での実践活動を通して思いやりやいのちの尊さを学び、地域社会や世界平和のために奉仕する心を育みます。



### 令和2年度 主に取り組む事業

- 青少年赤十字（JRC）加盟校（園）を増やします。
- 県内JRC加盟校（園）への防災教育事業の普及を進めます。
- 赤十字活動をサポートするユースボランティアを確保、育成します。

### （１）加盟校（園）の活動強化

- ア 研究奨励費（学校・グループ・個人）の交付
- イ 各種教材、資材の提供及び刊行物の発行（フォトニュース等）
- ウ 国際交流事業の実施（大韓赤十字社京畿道支社青少年赤十字メンバーとの交流）
- エ 青少年赤十字防災教育プログラムの普及促進
- オ 加盟校指導者対象研修会の実施

### （２）加盟促進に向けた取組み

- ア 校長会、県教育委員会及び市町村教育委員会への加盟促進依頼
- イ 未加盟校への学校訪問・教材提供

### （３）各協議会等の活動推進

- ア 地区協議会活動促進への教材提供・人材派遣
- イ 高校生協議会活動への教材提供・支援

### （４）研修会の開催

研修会名	開催予定回数	参加目標人数
小・中学生対象リーダーシップ・トレーニング・センター	1回	40人
高校生対象リーダーシップ・トレーニング・センター	1回	40人
高等学校加盟校対象救急法等講習会	1回	30人
高校生対象テーマ別学習会	3回	180人

### （５）その他

- ア 埼玉県青少年赤十字賛助奉仕団の組織強化

## 5 社会福祉・医療・血液事業

県内の各赤十字施設では、赤十字の使命である人間のいのちと健康、尊厳を守るため、互いに連携しながら社会福祉・医療・血液各事業を実施しています。それぞれの地域で役割を果たしながら安定的な事業遂行に努めています。



### 令和2年度 各施設へ支部が支援・協力する事業

- 社会福祉施設及び医療施設への助成を行います。
- 広報協力等、県内赤十字施設が連携した活動を行います。

#### (1) 社会福祉事業

ア 特別養護老人ホーム小川ひなた荘及び彩華園への資金助成

イ 社会福祉施設の経営に対する総合的な支援・協力

##### 【年間利用者数（計画）】

施設名	年間利用者数（計画）
小川ひなた荘	のべ 19,795 人
彩華園	のべ 31,638 人

#### (2) 医療事業

ア 医療機器整備費の助成（さいたま赤十字病院）

##### 【年間患者数（計画）】

施設名	入院患者数（計画）	外来患者数（計画）
さいたま赤十字病院	216,972 人	350,900 人
小川赤十字病院	94,026 人	148,896 人
深谷赤十字病院	133,882 人	184,680 人

#### (3) 血液事業

ア 赤十字奉仕団や青少年赤十字加盟校による献血推進活動への協力

##### 【年間献血者、供給数（計画）】

献血者数（計画数）	供給本数
のべ 235,591 人	777,090 本(※)

※：200ml 換算の本数

## 6 国際活動

192<sup>(※)</sup>の国と地域に広がる赤十字の世界的ネットワークを活かし、紛争犠牲者や災害被災者の緊急救援、開発途上国への開発協力を行っています。また、海外赤十字社との交流などを通じて国際理解・親善・協力関係を深めています。



### 令和2年度 主に取り組む事業

- 北関東 4 県支部共同によるバングラデシュ赤十字社保健医療支援事業への支援をします。
- 大韓赤十字社京畿道支社との交流事業を実施します。

### (1) 北関東四県（埼玉、茨城、栃木、群馬）支部共同支援事業

- ア バングラデシュ赤十字社保健医療支援事業への支援

### (2) 埼玉県支部単独事業

- ア 大韓赤十字社京畿道支社との交流事業  
大韓赤十字社京畿道支社奉仕団員の受入れ、JRC メンバーの派遣・受入れ

### (3) 海外派遣要員の育成

国際救援活動や開発協力活動、保健活動など、海外で活躍できる人材の育成を行う

### (4) その他

- ア 紛争・災害等による消息不明者の安否調査への協力
- イ NHK海外たすけあいキャンペーンによる支援活動の強化
- ウ 海外救援金の受付

※2019年12月に開催された第22回国際赤十字・赤新月連盟総会において、マーシャル赤十字社が191社目、ブータン赤十字社が192社目の加盟社として承認されました。

## 7 活動資金募集・広報活動

赤十字理念や赤十字の活動について、より多くの方が理解を深め、共感し、そしてご支援いただける関係を目指して、日々の私たちの取り組みを県民の皆さまにお伝えしていきます。



### 令和2年度 主に取り組む事業

- 地区・分区と協調して会員の増加及び活動資金の募集を行います。
- 赤十字フェスを奉仕団と共同で開催し、広く赤十字活動のPRに努めます。
- 広報紙やホームページ、Facebookなどを活用し、赤十字の活動を広報します。

### (1) 会員増強及び活動資金募集

募集区分	目標額
地区・分区扱い	420,000 千円
支部扱い	113,000 千円
本社扱い	25,000 千円
合計	558,000 千円

#### ア 地区・分区扱いの活動資金募集の強化

(ア) 目標額に対する実績が低い地区・分区における経済団体・商工会等への活動資金募集の強化

(イ) 各地区・分区や奉仕団等の協力を得ながら特別活動資金募集の強化

(ウ) 地区・分区を通じた定期的な情報発信

#### イ 支部扱いの活動資金募集の強化

(ア) 継続的な活動資金協力に繋げるための既寄付者へのアプローチ

(定期的な情報提供、複数回寄付のご案内、口座振替の推進など)

(イ) 職域（法人）における活動資金募集の強化

(ウ) 赤十字支援型自動販売機及びチャリティーボックスの常設を推進

(エ) 遺贈寄付の推進

### (2) 地区・分区交付金

各地区・分区における赤十字事業の円滑な推進を図るため、事務費交付金及び事業費交付金をそれぞれ交付する（総額 60,272 千円：平成 30 年度実績）。

---

### **(3) 赤十字の共感者を増やすための広報活動**

- ア インターネット広報媒体からの積極的な情報発信
- イ イベントの実施および出展による地域住民への PR
- ウ マスメディアの活用
- エ 会員への広報紙提供

### **(4) 「赤十字フェス」の開催（再掲）**

赤十字活動の PR と奉仕団の交流・活動発表の場として「赤十字フェス」を開催する。

## 8 参考資料

(令和2年1月1日現在)

### 1 講習関係指導員現況

	職員	ボランティア	合計
救急法	102 人	110 人	212 人
雪上安全法	1 人	5 人	6 人
幼児安全法	41 人	60 人	101 人
水上安全法	5 人	50 人	55 人
健康生活支援講習	37 人	33 人	70 人

### 2 赤十字奉仕団結成状況

	団数	団員数
地域奉仕団	49 団	6,413 人
青年奉仕団	5 団	42 人
特殊奉仕団	9 団	892 人
合計	63 団	7,347 人

地域奉仕団未結成地区・分区

西区、北区、大宮区、見沼区、桜区、浦和区、緑区、行田市、羽生市、上尾市、草加市、戸田市、朝霞市、和光市、新座市、北本市、八潮市、蓮田市、幸手市、吉川市、白岡市、鳩山町、東秩父村

### 3 青少年赤十字加盟校（園）の状況

	学校（園）数	メンバー数	加盟目標校数
幼稚園・保育園	130 園	17,559 人	133 園
小学校	248 校	107,672 人	260 校
中学校	141 校	52,917 人	144 校
高等学校	62 校	12,508 人	64 校
特別支援学校	2 校	183 人	2 校
合計	583 校	190,839 人	603 校

## 日本赤十字社の使命

わたしたちは、  
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、  
いかなる状況下でも、  
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

## わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

## わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、  
人道の実現のために、  
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、  
人の痛みや苦しみに目を向け、  
常に想像力をもって行動します。

---

令和2年度 事業計画書  
日本赤十字社埼玉県支部

〒330-0064

埼玉県さいたま市浦和区岸町 3-17-1

Tel 048-789-7117 Fax 048-834-1520

<http://www.saitama.jrc.or.jp/>